

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513670		
法人名	社会福祉法人 純心福祉会		
事業所名	グループホーム 温もりの家(楓ユニット)		
所在地	北海道茅部郡森町字上台330-12		
自己評価作成日	平成31年1月16日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0191500214-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、医療連携について 法人本部は函館谷地頭と距離が離れていますが、同敷地内に協力医療機関(森の里病院)があり、日頃から入居者様の健康状態について相談できる環境にある。また、緊急時には医療機関と連携が図れる体制が整っている。その他、毎月往診及び薬の定期処方があり入居者様の健康管理を行なっている。平成30年5月1日より協力医療機関(訪問看護ステーションあんず)と契約した事で、より手厚い医療体制が整備された。</p> <p>2、食事面について 法人本部の管理栄養士と調整しながら、グループホーム個々の利用者様に添った食事の献立や、栄養のバランスを考えた食事を提供している。</p> <p>3、外出支援について 当施設周辺には緑が多く散歩等の外出支援や、春には桜を観に出掛けたり、秋には紅葉を観に出掛けたりと四季の変化を楽しんで頂いている。</p> <p>4、誕生日会について 利用者様個々のニーズに合わせて、行ってみたい場所や食べたい物など入念にご本人様・ご家族様と話し合い、丸1日を掛けて戸外へ個別対応している。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム 温もりの家」は、JR森駅から3キロ程離れている鳥崎八景に近く自然豊かな所に立地している。昨年4月に医療法人から社会福祉法人に運営が移行され、新体制となって初めての外部評価の調査である。日々の業務にも変化が見受けられ、運営母体と同等の扱いに職員給与が改正され、職員の充足により個別支援の対応が出来るようになり、利用者の誕生日には家族と担当職員が付き添いで本人が行きたい場所、食べたい物などを計画し、一日を祝日として思い出づくりをしている。本部の意向によりホーム長は、日本クラフトユニオン労働組合に加盟して森支部を立ち上げ、仲間と共に就業環境の整備に意欲をもっている。養護学園卒業の職員に先輩職員全員が得意の分野を見出し優しく手を差し延べ擁護している。新規に契約した訪問看護事業所と医療面での充実を図り、利用者や家族に安心感を与えている。利用者は四季折々の季節の変化に触れながら、職員の笑顔に癒されて温もりのある家庭的な暮らしをしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らししている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念を復唱する事で、個々に理解・意識共有出来ている。日々のケアにおいても実践しており、特に「優しい気持ちと笑顔を絶やさない」という部分に関しては意識せずとも自然に行えている。	全体会議の中で地域密着型サービスの意義について職員間で話し合い、従来の「感謝、思いやり、笑顔」の法人理念に地域性を取り入れて見直し、サービスを提供している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お花見や夏祭り等の行事に参加し地域交流を図っている。毎月社協主催のふれあいサロンの日程・内容を確認し参加を検討しているも、入居者様の状態によっては難しい内容であったり日程調整が出来なかつたりと、現状では参加出来ない事が多いのが課題。	町内会に加入して行事のお手伝いや協力をしたり、月に1度の社協主催のふれあいサロンに参加している。保育園児が訪れ歌と踊りで利用者を和ませたり、訪問マッサージ師が定期的に訪れるなど交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様の面会時には近況報告とともに認知症について理解して頂けるようお話をさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催し、活動状況や入居者様の現状等について報告・話し合いを行い意見やアドバイスをサービス向上に生かせるよう努めている。ご家族様の参加が少ないため議事録を郵送している。	行政、社協、地域住民、家族と認知症の会が参加して定期的に開催している。運営状況、行事報告、地域との交流、防災訓練など多岐にわたり意見交換が行われ、サービスの向上に活かし、議事録は家族に郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や他の会議等で情報交換・取り組み状況等の報告を行っている。	町担当者とは介護保険関連、規定書類の提出での訪問があり、ケア会議の参加や加算申請状況の問い合わせはメールを利用したり、協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、定期的に身体拘束の勉強会を実施しており、新人職員・経験職員ともに、身体拘束について考え、介助に取り組んでいる。入居者様に身体拘束のない、生活を提供出来ていると思われる。	身体拘束廃止委員会を中心に勉強会を実施し、拘束の禁止対象となる具体的な行為と介助方法について話し合い、職員間の共有を図り、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ感で、入居者様への声掛けの仕方等、都度会議にて話し合いをし、防止に努めており、定期的に勉強会を開き、虐待について、見つめなおす機会を作り、防止に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学びたい思いはあるが、研修や関係者との話し合いの機会を持っていないのが現状。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長(ケアマネージャー)により、入居前に口頭・書面にて十分な説明を行い、理解・納得された上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したりアンケートを郵送したりする事で、意見や要望を伺い反映出来るよう努めている。	家族アンケートを実施している。面会時に意見や要望を聞く機会を設けて情報の入手に努め、出された課題は職員間で検討し改善に取り組み、反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議・全体会議で職員の意見や提案する機会を設け、反映出来るよう努めている。	職員に個人目標を提出してもらい、半年ごとに人事考課で評価と熱意を引き出している。主任と副主任が悩みや意見を聞き、月2回のユニット会議の中で解決に向けて話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を取り入れた業務改善や労働時間の調整等、働きやすい職場環境作りに努めている。資格取得や技術向上のための研修会に参加する機会もあり、やりがいをもって働けるような体制が整っていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習係を中心に、毎月勉強会・研修会を開催している。学びたい事・興味がある事・業務に生かしたい事等、職員からの意見や要望を反映させている。施設外研修は希望者が多数いるも、中々参加出来ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会・研修会を通じて意見交換・情報交換を行い、サービスの質向上に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、ホーム長(ケアマネージャー)により、本人やご家族の意向をとり、入所後も、入居者様個人の意見を、日々の介護の中から聞いたり、感じ取ったりと、不安のない生活を提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム長(ケアマネージャー)により、入所時、ご家族の意向を聞き取ると共に、ご家族様来所時には、出来る限り、会話の場を作り、要望を聞き取っていただけるような、関係づくりを心掛けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関やご家族様・本人より情報収集を行い、職員間においても情報の共有・対応の統一を図り必要な支援を見極め、不安や心配なく安心して生活できるような対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のケアの中での何気ない会話やレク等で、楽しい時間を一緒に過ごしている。入居者様の状態にもよるが、出来るだけ多くの方に自身の役割や必要とされていると感じて頂けるよう、食器洗いやウエスタタみなどのお手伝いをお願いし職員と一緒に頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告を行ったり、遠方のご家族へは毎月お便りを郵送し現状を伝えている。受診や必要物品の購入依頼等で電話した際にも、なるべく本人の様子がわかるよう些細な出来事でもお伝えし、本人とご家族様の関係や絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事やレク、誕生会などで外出する際は、本人の行きたい場所や思い出のある場所などを選ぶよう配慮している。大切な人や場所との関係が途切れないよう支援している。	定期的に訪れる知人や、馴染みの美容室は送迎付きで交流を図り、職員は家族と協力しながら一人ひとりの生活習慣を尊重し、関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度により、関わり合いの場は、違ってしましますが、出来る方には製作を行って頂き、難しい方には、製作をみて頂くと、それぞれの状態に合わせ、楽しんでいただき、皆さまが一緒の空間で、取り組んでいけるような場を、提供できるよう努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後であっても来所して下さるご家族様もあり、お話する機会がある。また、遠方の施設へ移られた方へ電話を入れ仲良くしていた入居者様や職員と会話したりと、途切れない関係性を大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望などの対応は難しく対応する事が出来ておらず、声掛けの工夫で、納得し、帰宅願望が緩和できるよう努めている。個々の訴えを、担当職員中心となり、本人の意思を尊重できるように考えて取り組んでいる。	帰宅の訴えが多い利用者や寡黙な利用者など個々の訴えに困難が見受けられるが、職員は「気づきノート」に記録し、本人にとって最適な方法を意見交換して対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に際して、ホーム長(ケアマネージャー)により本人やご家族からの聞き取りや、入所後も日々の介護の中から聞いたり感じ取ったりと、不安のない生活を提供できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者様の日々の生活支援の中で、常に状態観察(状態把握表を作成)を行い、その方の現状の把握に努めております。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態観察を常に行っており、状況に応じて家族との連携や相談、本人との話し合いを行っております。又、モニタリングを活用し3か月毎にスタッフ間で精査・確認し、より良い介護計画を作成・実践するよう努めている。	本人と家族の要望を取り入れ、日々の記録を参考にアイデアと意見を出し合い、モニタリングを繰り返し、状態に変化が生じると随時見直ししながら、現状に合わせて計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他に職員間での気づきノートを設置し、情報や実践結果の共有を図り、必要に応じて計画の見直しやより現状に即した実践を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてのサービスは概ね対応しているが、慢性的な人手不足もあり多機能化は出来ていない様に思われる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の町内会様よりお声を頂き、盆踊り大会の際のおにぎり作りや、餅撒き用のお餅の製作等に参加させて頂いている。但し、参加出来る方が限られてしまう現状がある。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診する際には、ご家族様の了承を得、受診結果、経過報告等を都度報告し、ご家族様に安心して頂けるようにしており、通院医は、本人またはご家族にどの病院が良いのか確認し、かかりつけ医に、出来る限り診て頂けるよう配慮している。	運営母体が変わり隣接の医療機関での受診は不可能であるが、近くの町立国保病院で受診している。新規に契約した訪問看護事業所は、相談やアドバイス、受診時の同行と夜間対応が可能で、適切な医療が受けられるよう支援している。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護利用し、入居者様の状態報告し、適切な対応方法の指導をうけている。都度、容体変化時にも、訪問看護へ報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ホーム長(ケアマネージャー)中心となり、病院側のスタッフと連絡を取り合い、現在の状態・今後の方向性・退院時期などを把握している。病院側職員との信頼できるような関係性を気づける様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護サービスと、入居者様の状態を定期的に報告し、異常時には、都度報告して、今後の対応について早期に話し合いをしている。	契約時に事業所の方針を家族に説明し、同意を得ている。主治医の判断で医療行為が必要となった時には、家族の意向を再確認し、チーム全体で支援する体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、救急の勉強会を開催し、実践力の向上を図っており、救急時のマニュアルを、ステーションの目の届く位置に掲示することによって、早期な対応を実現できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、防災想定による訓練を実施しており、対策工程の把握に努めている。	年2回、日中と夜間想定で失火場所を設定して通報と誘導訓練を実施し、終了後には消防署の評価を受けている。自然災害に備えて備蓄の充実を図っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を理解し、声の掛けかたや、支援内容などを個人により、工夫し提供している。	職員は接遇の勉強会で人格の尊重について学び、羞恥心を伴う配慮や言葉使い、守秘義務を徹底し、プライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りは自己決定を促すが、意思表示をするかたが少なく、遠慮せずに思いを打ち明けられるような、引き出し方を工夫して行かなくてはいけない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	都合を優先してしまう場面が多々あり、一人一人のペースに合わせる事が、出来ていない。今後の課題として、入居者様個人の希望に沿った介護を提供していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は御家族様に依頼し、以前着ていた物などを、持参していただいております、その人にあった服装を提供できるよう支援している。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	認知度・ADLにもより食事準備は簡単なものしか手伝ってもらっていない。何ができるのか?もっと、色々なものを、入居者様と共に、提供できるよう、今後考えていかなければならない。	本部栄養士の献立を参考に栄養のバランスを考えながら、利用者の希望に添って屋外で焼き肉や流しソーメンを楽しんだり、おやつを作るなど食事のお手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量等、表に記入し、職員把握できるようにし、水分・食事摂取量減少時にすぐ気づける様、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人で出来る限りのことは行って頂ける様、実施している。個人の残存機能に合わせ、支援はできていると思う。口腔内の状態により、都度、歯科受診や往診の対応をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向け、話し合いや工夫はしているが、減少してはならず、今後の課題となる。	利用者の排泄の間隔を把握して訴えを見逃さず、声がけや誘導でトイレでの排泄を促している。日中は布パンツを使用し、夜間は安眠を優先に本人の寝ている状況に合わせて介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には薬にて調整しているが、薬を使わず、運動などで排便を促せるよう、今後取り組んでいかなくてはと、課題となる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、職員の都合で、決めてしまっており、個々にそった支援をできていないが、時間や順番は、訴えがある場合に対応している。入浴拒否時には、無理強いしていない。	浴室は広さがあり、大型の浴槽には手すりが完備され、利用者は週2回の入浴を目安にしている。入浴を拒む時には入浴剤を変えたり、スタッフを交替して支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臀部の状態や、状態維持(体の傾き)、本人の訴えにより、日中にも、休息の場を設けるよう、都度職員間で、入居者様の状態を話し合い、提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で入居者様の薬について把握しているが、担当制をもうけ、さらに詳しく、自分の担当についてはさらに理解できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会などは一人一人の楽しみを提供しているが、日々の生活の中で、個人の楽しみ事を、提供できる場が少なく、団体での提供となっている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(楓ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望により戸外に出かける事は出来ない。外出は病院受診時か、2~3か月に1回、外出レクで出かける程度となっており、希望にそえていない。	利用者の体調と天候を考え、周辺の散歩、遠出のドライブや外食に出かけている。青葉ヶ丘公園のお花見、大沼公園の紅葉を楽しみ、外出が困難な時には玄関先で日光浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には、お金を持って頂いており、施設前に自販機があり、購入の訴えある場合には、一緒に買いに行く等の対応をとり、出来る限り、日常生活に近づけるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	都度、対応できていると思われる。個人によって、ご家族とのやりとりにより、不穏になる方がいるので、個人によって職員対応にてご家族と連絡を取り合っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎で、壁の装飾をレク委員会が中心となり、変えていき、四季を感じて頂ける様にしている。個人によって、不穏になるものがあり、発見次第、都度回収したり、職員同士話し合いをし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関を中央に両側に各ユニットがある平屋造りの事業所内は床暖房が施され、回廊となっている廊下は歩行訓練に活用されている。壁には行事や外出時の写真が提示してあり、季節ごとに装飾に変化をつけて居心地のよさに工夫が見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席を、入居者様個人の性格や認知面などを、考慮し、話し合いのもと決めている。施設が狭い為、居室以外では、入居者様、一人になれる場所が無い為、今後の課題となる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、出来る範囲で、本人の使い慣れたものを、居室にて使用できるように配慮し、随時、本人の訴えがあった場合などには、ご家族様に相談しており、居心地よい環境づくりを提供できていると思われる。	居室にはクローゼットが備え付けられ、冷蔵庫、テレビ、床頭台、ベッドも用意され、使い慣れた家具や日用品が持ち込まれている。自然災害に備えて家具に転倒防止の金具を取り付けるなど安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故の危険性に配慮し、本人に出来る範囲の事は、行っていけるようにしているが、認知面と事故の両方を考えていくと、出来る事も、制限してしまっている部分があり、今後、出来る事を増やしていきたい。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513670		
法人名	社会福祉法人 純心福祉会		
事業所名	グループホーム 温もりの家(銀杏ユニット)		
所在地	北海道茅部郡森町字上台330-12		
自己評価作成日	平成31年1月16日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0191500214-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、医療連携について 法人本部は函館谷地頭と距離が離れていますが、同敷地内に協力医療機関(森の里病院)があり、日頃から入居者様の健康状態について相談できる環境にある。また、緊急時には医療機関と連携が図れる体制が整っている。その他、毎月往診及び薬の定期処方があり入居者様の健康管理を行なっている。平成30年5月1日より協力医療機関(訪問看護ステーションあんず)と契約した事で、より手厚い医療体制が整備された。</p> <p>2、食事面について 法人本部の管理栄養士と調整しながら、グループホーム個々の利用者様に添った食事の献立や、栄養のバランスを考えた食事を提供している。</p> <p>3、外出支援について 当施設周辺には緑が多く散歩等の外出支援や、春には桜を観に出掛けたり、秋には紅葉を観に出掛けたりと四季の変化を楽しんで頂いている。</p> <p>4、誕生日会について 利用者様個々のニーズに合わせて、行ってみたい場所や食べたい物など入念にご本人様・ご家族様と話し合い、丸1日を掛けて戸外へ個別対応している。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し毎朝朝礼時に職員全員で声に出し復唱確認し共有しており、また理念を基本にユニット目標、個人目標を立て、日々のケアにおいて実践できるように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への地域行事への参加や、地域内のイベントや法人内のイベント(夏祭り等)に参加し地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の会合などに出向き、認知症についての理解をお話しさせていただいたり、ご家族には面会時での会話内や入居対応時、電話などにてアドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、活動状況や入居者様の現状等について報告し、それについて推進委員から意見やアドバイスをもらい、サービス向上に活かせるよう努めているが、ご家族様の参加率が低いことが現状。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、地域包括ケア会議に出席し、情報交換や実情についての取り組み等を伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新しく身体拘束防止委員会を立ち上げ、職員会議等で日々のケアの中で肉体的な拘束は勿論、精神面で拘束してしまっていないか等の勉強会や、話し合う機会を定期的に設け良いケア方法を検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を中心に外部の研修会に参加し報告会や勉強会を職員会議で開催し理解を深められるよう取り組んでいる。各々が自覚のない虐待になってしまわないように、話し合い努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(银杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加はしているが、支援につなげられるような関係者との話し合いや検討までには至っておらず、機会がない状態である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に口頭・書面で重要事項説明を行ない、理解、納得していただいた上で契約を行っている。また、契約の際にご家族様となるべくコミュニケーションを取り、信頼関係の構築を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。来所時に意見や要望を聴かせて頂いたり、アンケートの実施や運営会議の議事録、「温もりの家便り」を送付し意見や要望を反映出来るよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、全体会議内で職員の意見や提案する機会を設けている。また半年に1度個人面談を実施し意見を言いやすい環境づくりを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を取り入れた業務改善や上司と掛け合い給与水準について相談したり、モチベーションを維持できるような体制を整備している。常々、話しやすい環境づくりを心掛け職員の意見を取り入れようように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で月に一度の勉強会を開きケア方法などの理解を深める活動を行っている。また外部研修会実施日などを職員に伝え積極的に参加できるような環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所との勉強会・交流会などに参加し情報交換を行うなど、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には面談を行い、ご本人様・ご家族様の思いや不安等を把握し、ご本人様が安心して生活を送れるよう支援している。入居後においても思いや考えを理解しながら支援にあたるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活に対する希望や健康上の不安、これまでのご本人様同士の関係性などを雑談の中でお聞きしており、ご本人様、ご家族様も含めて良好な関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関やご本人・ご家族様から情報収集を行い、その上で必要なサービスや支援を見極め、日々のケアに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日一度は利用者とは触れ合うレクリエーションを実施している。その他、家事作業など可能な利用者様に手伝いをお願いし職員と共にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で近況報告等を行っているが、ご家族様の中には忙しい方や遠方の方もいるため、温もり便り。手紙・電話で普段の様子をお伝えしている。また行事参加案内の送付や日用品等の必要になった物のお願い等、ご本人様とご家族様の関係作りを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日・行事を利用して本人様の「行きたい場所」へ食事に出かけたり、町内のお祭りへ参加したり、馴染みの歯科医など関係が途切れてしまわないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事・おやつ作り・レクリエーション等を通じて交流の機会を提供している。また入居者様の状態に応じ席替えを実施したり、職員が介入しコミュニケーションのお手伝いをするなど、他入居者様間において関わりを継続できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関係性は希薄になるが、町内の病院や買い物等でご家族様と顔を合わせることもあり、挨拶を欠かさず行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や思いについて把握できるよう、コミュニケーションを大切にしている。思いを表出するのが難しい方には、普段の様子などから本人様の立場になって想像することを行い、意向の把握についてはご家族様へ昔の本人様の話などを聴いて把握するよう努めている。また職員間にも気づいたことを話し合い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人の担当職員が状態把握に努めており生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境などご本人様・ご家族様と積極的に関わりをもち情報収集に努め居室環境整備にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の担当職員が状態把握に努め、積極的な関わりを持つことで現状の把握に努め、職員で情報を共有しケアの統一に努めている。また、状態把握表を作成全職員が周知できるよう整えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行っている職員会議や担当者会議で話し合いを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月行っている職員会議や担当者会議内での話し合いは勿論、チームで気づきノートを作成し個々の気づきや相談、報告などを記入し職員間で情報の共有をしながら実践や介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気づきノートや職員会議・状態把握表などで情報を共有し可能な限りケア内容等に盛り込みサービス多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加や外食に出かけたり、消防署の連携にて避難訓練を実施したり、安全に屋外を散歩できるように警察にも協力を依頼している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接している協力病院について説明した上で、かかりつけ医になっていただいている他、ご本人様が以前からかかりつけ医として利用していた病院を、そのまま利用したり、ご家族様からの希望にて病院を変えるなどの支援を随時行っている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間の情報共有を密に、状態変化を早期に発見し、看護師に相談できるよう努めている。小さなことでも相談・報告し良好な関係性を築けるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は関係機関と情報提供書を相互に提出することや、退院前に面談を行う為の連絡調整をしており、協力体制の確保に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取り体制は整備されておらず、現状では協力医療機関や町内の病院へ転院する等の対応を講じている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発生時のアニュアル・訪問看護師への連絡・避難訓練や応急手当や初期対応の訓練を積極的にを行っている。急変や事故発生にまでは至っていないが、今後も定期的な訓練は必要と考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。本年度9月の地震災害時以降、マニュアルを作成し備蓄品なども用意し備えることができています。今後も定期的な訓練は必要と考えています。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員各々が自問自答しながら日々のケアにあたり日々試行錯誤を行いながら工夫している。気づきノートを活用しての情報共有、会議などで対応の検討を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば意思表示が難しい入居者様であっても、普段のコミュニケーションの中での表情などから、本人の思いや希望を少しでも気づき、汲み取れるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で個々のペースに合わせ支援を行えるように努めているが、人員不足の際は職員都合になることもあるが個人の意向に沿えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の状態に合わせ、理容室へ出かけたり、衣類を買いに出かけたりしている。また、ご家族様の情報や生活歴から支援に繋げている。担当が観察し理容室の予約や爪切り、髭剃りなど整容に努めている。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人本部の管理栄養士と利用者様個々のニーズに添えるよう、栄養バランスを調整しながら献立を依頼している。また利用者様個々のADLにもよるが、食材の下ごしらえを一緒に行ったり、食器洗いなどを役割として行えるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて器や食事形態を変更したり、嗜好品を聞いたり食事時間を調整し提供している。また摂取量などの管理表を作成し職員全体で把握できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自信で行う方であっても必ず終了後に確認させていただいている。義歯の方や、うがいが困難な方も、ガーゼ等を使用させていただくこともあり個々の状態に応じた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況に応じ、夜間はオムツを使用しても日中は布パンツにしたり、排泄のサインをキャッチし誘導を行う等、できるだけトイレで排泄できるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた献立や、個々に応じた形態等で工夫している。また、好みに応じて野菜ジュースやヨーグルトを取っていただいたり、運動の機会を作り体操を行っている。下剤等はなるべく使用しないよう担当が観察調整に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回(月・金)を入浴日として決めており、曜日時間を問わず好きな時に入浴することはできていない。しかし、なるべくご本人様のタイミングで入浴していただけるよう支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や身体状況に応じた支援を行っている。日中は活動休息バランスを整え、メリハリのある生活の支援に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況、薬情は専用のファイルに綴り、各職員が確認できるようになっている。処方の変更があった場合は連絡ノートに記入することにより確認できるようになっており、担当が責任を持って周知するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において必要な仕事である洗濯物置や、食器洗い・食器拭き等、自分の役割としていただけるよう支援している。また、ご家族様との外出、施設での行事・外食等で気分転換に繋げ、お誕生会はい個別対応とし楽しみの一つであるよう支援している。		

グループホーム 温もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(銀杏ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中で希望等を把握し外出支援に繋げている。歩くことがお好きな方には夏場限定ではあるが職員付添い散歩に出掛けている。外出した際は写真を取り廊下やご本人様の居室前に張り出ししており、そこからコミュニケーションに繋がられるような試みを行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力や希望に応じて金銭所持して頂けるよう努めているが、現在金銭所持できる入居者様はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の能力に応じながら、これまでの繋がりを大切にし、ご家族様や親戚との電話でのやり取りが行えるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファの配置の工夫を行い、より居心地の良い共有空間を目指しゆったり寛げるように取り組んでいる。ホールでは季節感が感じられるよう、レイアウトを工夫したり、廊下には外出レクやホーム内で行われたレクの写真を張り出し、思い出について話せる工夫を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いてからゆっくり一人になれたり、仲の良い方同士が会話等できるよう工夫している。入居者様の関係を見極めた環境作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で過ごされる方に関しては、ご本人様が居心地良く過ごせるよう配慮している。休養や就寝のみの方も飾り付けや写真を貼るなどの工夫をしている。担当がコミュニケーションを取りながら希望に沿えるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活が送られるように、入居者様の能力を日々のケアを通して把握し、必要な支援の見極めを行っている。トイレの場所をわかりやすく表示したり、道がわかるよう案内を貼ったりしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 温もりの家

作成日：平成 31年 2月 27日

市町村受理日：平成 31年 2月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	町内会との関わりとしては、お花見や夏祭り等の行事に参加し地域交流を図っている。毎月社協主催のふれあいサロンの日程・内容を確認し参加を検討しているも、入居者様の状態によっては難しい内容であったり日程調整が出来なかったりと、現状では参加出来ない事が多いのが課題。	①町内会との密な関係作りの構築 ②地域交流への参加継続、認知症の緩和に繋げる ③その他	①現状町内会も高齢化が進んでおり、大きな行事以外は月1の定例総会で顔を合わせる程度で、お互い密な関わりでいうと乏しい。今後は行事以外の部分で、町内会だけでは大変な事、困っている事など協力できるよう積極的に呼び掛けていく。 ②昨年旧施設開設以来念願の森町のお祭りへほぼ全員参加する事ができ、入居者様も「何十年ぶりだろ？お祭りをこんな真近で見れるの・・・露店の商品を食べながら見れたし、一生の思い出になったわ。こんな遅くまでありがとう。」と感慨深く話されており、こういった声を今後も大切に、職員数にもよるが出来る限り毎年続けていく。 ③町内会に関わらず、法人として小さな事からでも、森町全体の活性化に携われるよう努めていく。	1年
2	35	規定の年2回夜間想定での避難訓練をもりの家と合同で実践。昨年9月の地震災害時以降、マニュアルを作成し備蓄品なども用意し備える事ができている。今後も定期的な訓練は必要と考えている。	①年2回の避難訓練継続と、毎月自主訓練の実践 ②災害時対策の検討	①今年度は規定の年2回の避難訓練及び、救命講習、施設独自の自主訓練は実践できていた。次年度は町内会(防災部)、協力医療機関(森の里病院職員)、姉妹施設(もりの家)含め、連携・協力しながら訓練の実践に努める。 ②メディアでもこの30年以内に日本海側を中心にM7～9クラスの大きな地震が予測されるとの見解で、法人全体で各事業所での対策が急務となる為、施設単位ではなく地域全体での取り組み(地域ケア会議などで議題)をしていきたい。	1年
3	13	施設内で月に一度の勉強会を開きケア方法などの理解を深める活動を行っている。また外部研修会実施日などを職員に伝え積極的に参加できるような環境づくりに努めている。	①内部研修の充実 ②外部研修参加への取り組み ③職員育成への取り組み	①今年度は毎月学習係を中心に新人職員でも分かりやすい研修内容を考え実践できていた。次年度も学習係は人選変更がない為、引き続き研修内容の充実を図る。 ②遠方の研修会には費用や職員が数日公休などで勤務に空きができる為、中々研修へは参加させられない状況。ただ近隣の研修には実施日など事前に伝え、積極的に呼び掛け参加できているので、次年度も継続する。 ③現在主任・副主任を中心に新人職員(時間を掛け指導)・中堅職員(実践の振り返りなど)の育成に力を入れており特に問題はない。次年度も同様に焦らずゆっくり指導していく事で、実践力の向上、介護の魅力・やりがいを伝え、長く勤めてもらえるよう努める。	1年

4	21	<p>行事・おやつ作り・レクリエーション等を通じて交流の機会を提供している。また入居者様の状態に応じ席替えを実施したり、職員が介入しコミュニケーションのお手伝いをするなど、他入居者様間において関わりを継続できるよう努めている。</p>	<p>①認知度の調合性に応じた関わり合いの実践 ②認知症の緩和への取り組み</p>	<p>①認知症の症状により関わり合いの場は変わりますが、レク・調理などできる方には行って頂き、難しい方には作業工程を見て頂くなど、それぞれの症状に合わせて楽しんで頂き、皆さんが一緒に空間で取り組んでいけるような場を提供していく。 ②上記にも重複するが、認知症対応型の施設なので、日々のレクリエーション(個別、団体)、行事など交流の機会を提供していく中で、認知症の緩和に繋がたい。</p>	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。